

お宝の山！ 今こそ国産広葉樹の出番です

国内で使われる広葉樹材はほとんどが輸入

- ・海外で資源量の減少等により輸出規制
- ・円安の影響

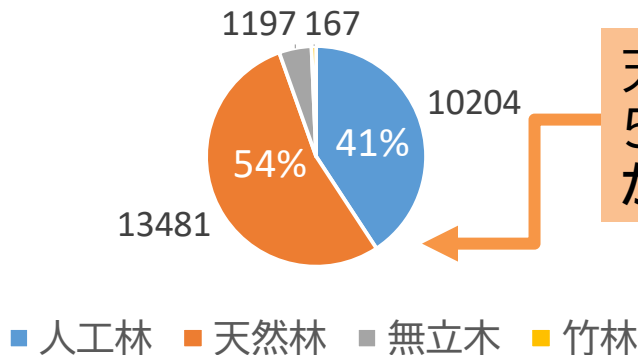
輸入広葉樹材の
価格高騰

国産広葉樹は、全体の9割が安価なチップに

- ・同一の樹種、サイズの規格材を安定供給することが困難

国産広葉樹を有
効活用する仕組み
が必要

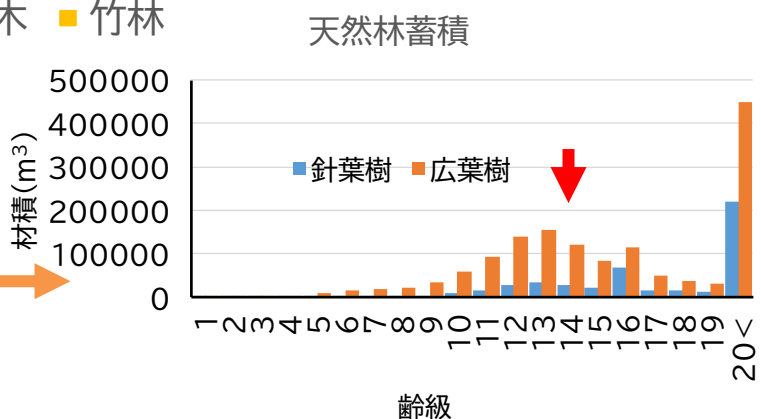
日本の森林面積 25048千ha



天然林は、森林面積の
54%。そのうち84%
が広葉樹林

広葉樹 14億4千万m³
針葉樹 4億8千万m³

以前薪炭林として使われてきた
二次林が長年放置され、現在13
齢級（約65年生）をピークとして
蓄積が増えている。



森林・林業統計要覧(林野庁2020)より作成

樹種や大きさ、形も複雑。広葉樹林は一見使いにくそうですが、その姿を見極めることができると「雑木」ではなく「お宝」になります。価値ある資源を活かすための取り組みを紹介します。

講師：山下直子(関西支所)



お宝の山！ 今こそ国産広葉樹の出番です

広葉樹林は多様な樹種の集まりで、そこから生産される多様な材の形質に合わせた(自然の実情に合わせた)使い方が必要です。現在各地で広葉樹の個性を活かした取り組みが盛んになっています。

広葉樹の主要産地でも低質材の活用がスタート

◆ひだか南森林組合(北海道様似町)

チップ用原木として集荷している広葉樹低質材から、製材として利用できる原木を選別、加工・販売。

酒井、内田(2022) ウッディエイジ



▲ 森林組合の土場に集められた原木

◆白樺プロジェクト(北海道上川町)

シラカバを余すことなく利用し、地域活性を目指す、産官学民連携プロジェクト。独自の認証材制度、家具、楽器、樹液水、ハーブティー、皮細工

<https://shirakaba-project.jp/pg153.html>



▲ シラカバ樹皮のベンチ

▲ シラカバの器

▲ 組合で製材した広葉樹板
写真は、道総研林業試験場 大野泰之氏より提供

更新と利用をセットで考えた持続可能な森づくり

◆スノーピーチプロジェクト(新潟県魚沼市大白川)

ブナの適地において、間伐を適正に行い、前生椎樹による天然更新で次世代を育成する持続的林業により生産されたブランド材

家具、木工品、ハンガーなど



▲ 中田工芸株式会社
(兵庫県豊岡市)
www.nakatahanger.com/

▲ チェロチェアー
ISANA(イサナ)
<https://isana-furniture.net/products/>



▲ 大白川生産森林組合が管理するブナ林



▲ 偽心材の生態デザインを活かした玄関ドア
Taka創造建築舎
(<https://takasozo.com/>)

写真は新潟大学名誉教授 紙谷智彦氏より提供

小径木・多樹種活用による地域再生

◆広葉樹のまちづくりプロジェクト(岐阜県飛騨市)

飛騨市、トビムシ、ロフトワークの第3セクターにより「飛騨の森でクマは踊る」(ヒダクマ)設立。広葉樹活用コンソーシアム設立。広葉樹施業実証試験モデル林を設置。広葉樹施業指針を策定。

オフィスリノベーション、家具、木工品、森・まちづくりイベント、FabCafe運営



▲ 飛騨市と森林総研による広葉樹更新調査。



▲ 飛騨市産ナラ材の家具。川崎市の聖マリアンナ医科大学病院のデイルーム(写真は飛騨市提供)



▲ 曲がり木をテーブルの脚に活用
<https://hidakuma.com/projects/campusvillage/>



2022年にオープンしたヒダクマの森の森オフィス、飛騨市産広葉樹材を構造材として利用。

生物に配慮した森づくりと広葉樹活用

◆森と水のブランディング(滋賀県東近江市)

合併により、愛知川流域が1つの行政区でまとまったことを契機に、水源の森を下流域が支えるプロジェクトを展開。モノづくり職人のまち。東近江市100年の森づくりビジョン策定。公益財団法人東近江三方よし基金が設立。

家具、木工品、エコツアー



ナラ枯れの変色材や、ビンホールをそのまま使い自然の風合いを活かした椅子(道賀チエア)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/biwakozai/308738.html>



▲ スピーカー 東近江市産の広葉樹材をボディに使用。
HORA audio
<https://hora-audio.jp/>



▲ 伝統的な木工技法による東近江市会見用バックパネル「東近江市あらゆる場面で木をつかう推進協議会」 川村克己氏より提供



▲ ライオン環境賞100万円
びわ湖から鈴鹿山脈まで
水源を守る100年の
森づくりを支援したい
https://www.kumino.jp/



▲ 産地情報を刻印した玩具
<https://www.kumino.jp/>

多様な広葉樹を有効活用するためには、さまざまな用途への出荷先を確保しておく必要があります。また、これらを現場で見極めて振り分けることのできる人材も必要になってきます。最近では、真っすぐな材ばかりではなく、曲がったり変色した材を用いた製品も開発されています。また、森の由来や産地の歴史などのストーリーを伝え、顔の見える製品づくりに取り組む地域もでてきています。利用後の森林資源の再生には、数十年～数百年単位の長い時間がかかります。今後は、資源価値を正しく見極め、森林の更新も考慮した持続可能な生産体制が必要です。